

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人山口市文化振興財団	
施 設 名	山口情報芸術センター[YCAM]	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 (総 額)	8,331	(千円)
	公 演 事 業	8,331 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	縛られたプロメテウス	令和3年10月23、24日	演目：小泉明郎「縛られたプロメテウス」 構成・演出：小泉明郎	目標値	130
		スタジオB		実績値	272
2	sound tectonics#25 "Vernacular Vibe"	令和3年12月4日 ※	出演：和田永（日本）。 Sabina Ahn(韓国) ※ 録画物による出演	目標値	60
		スタジオB		実績値	56
3	YCAM performance lounge #7 搬入プロジェクト 山口・中園町計画	令和3年7月24日 ※	出演：山口で搬入プロジェクトを実施する会 ※ 無観客、ストリーミング配信。	目標値	300
		山口市中央公園および ホワイエ		実績値	1,788 (視聴回数)
4	ハイバイ『ヒッキー・カンクーントルネード』	令和3年9月10、11日 (公演中止) ※	事前ワークショップのみ開催。 ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止。	目標値	200
		スタジオA		実績値	0

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>山口情報芸術センター（以下「YCAM（ワイカム）」）のメディアと芸術の融合をコンセプトとする先端的な芸術表現への取り組みを核としつつ、山口市の文化振興を図るというミッションに沿い、質の高い実演芸術活動に触れる事業を展開しました。新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けつつも、海外からの出演者に限り録画物での演奏としたり（事業2）、無観客ストリーミング配信としたり（事業3）するなどの工夫により、当初の計画に沿い、人々へ文化芸術を届けるという役割を果たしました。</p> <p>事業1「縛られたプロメテウス」では、2021年第24回文化庁メディア芸術祭アート部門大賞を受賞したVR技術を用いた「体験型演劇」という新たな形態の鑑賞体験を提供しました。</p> <p>事業2「sound tectonics#25 “Vernacular Vibe”」では「日常」をテーマにし、バーコード・リーダーという電化製品を楽器へと読み替えたり、人間の汗など日常的・生物学的な素材を機械に接続して音に変換したりという、創造的なサウンドアート公演を行いました。</p> <p>事業3「YCAM performance lounge #7 搬入プロジェクト 山口・中園町計画」ではパブリックドメイン（誰もが自由に利用できる公有財産）を用いた作品を市民とともに上演しました。</p> <p>事業4「ハイバイ『ヒッキー・カンクーントルネード』」では、新型コロナウイルス感染症の影響で、本公演は中止となりましたが、それに先立ち行ったワークショップにおいて、作品の脚本・演出家を講師に招き、演劇的な思考方法や視点を知ること、舞台作品への関心につながる機会となりました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>助成により下記のような取り組みが可能となりました。</p> <p>文化的意義</p> <ul style="list-style-type: none">事業1では地域住民へVRを活用した意欲的な舞台作品の魅力を伝えることができました。 <p>社会的意義</p> <p>コロナ禍においても、下記のような取り組みを通し、演奏者への出演機会、観客への鑑賞機会の確保をすることができました。</p> <ul style="list-style-type: none">事業2では、韓国人アーティストの来日は断念せざるをえませんでした。自国で演奏の様子を収録・制作した動画を公演会場で視聴することで、そのサウンドを観客に届けるとともに、日本語の字幕を付けた学芸員とのインタビューも紹介し、観客の音楽への理解を深めることができました。事業3では、施設前の公園を含めて、館内の公共スペースを往来する人々も観客として巻き込みながら展開していく公演であったため、コロナ禍においては無観客とし、その公演の様子をストリーミング配信しました。視聴回数1,788回（令和4年2月末時点）。 <p>経済的意義</p> <ul style="list-style-type: none">事業1ではこれからの社会を担う多くの若い世代が作品に触れることができるよう、高校生以下のチケット価格を安価に設定（前売300円、当日500円）することができました。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標 1 地域における実演芸術の振興

事業番号 1 では演劇・VR/AR・美術作品という本来融合させることがきわめて難しいものをひとつにまとめた体験型演劇作品であり、地域住民に多彩で質の高い実演芸術に触れる機会を提供することができました。

目標 2 独自の創造性及び企画性が高く、特色ある実演芸術の振興

事業番号 2 においては、古い家電を「電磁器（楽器）」として蘇生させた演奏や、電磁（音楽）に呼応したレーザー光線投影するなど、創造的な音質・空間のサウンドアート作品を地域住民に届けました。

目標 3 地域住民との交流により実演芸術に対する関心を高める

事業番号 3 は演劇プロジェクトの出演者として多くの地域住民が参加し、実演芸術に触れる機会を通し、地域コミュニティの実演芸術に対する関心と理解の増進に寄与する活動となりました。

目標 4 日本語による広報活動の充実

ホームページ、ツイッター・フェイスブック等、コロナ禍でも可能な広報手段を活用するとともに、事業番号 3 においては地元テレビ局番組内でストリーミング配信の視聴を促すなど、事業認知度向上を目指しました。

目標 5 外国語による広報活動の充実

外国語版に関しては英語でのウェブ展開を中心に、発信力強化に取り組みました。

指標 1. 満足度 [目標 1、2 に該当]

来場者アンケートを実施し、内容に満足していると回答した参加者の割合 80%以上を目指す。

実績：82% ⇒目標達成

※ 実演芸術の鑑賞機会に限られる地方においても、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら事業展開を行う中、上記目標 1、2 に対応した取り組みを通して得た結果と考えます。

指標 2. 新規来場者数 [目標 1、2、3 に該当]

来場者アンケートを実施し、新規来場者が入場者・参加者の 23%以上を目指す。

実績：12% ⇒目標未達成

※ 新型コロナウイルス感染症のため、外出自粛、弊館ウェブページ掲載での他県からの来館自粛要請、臨時休館（令和 3 年 8 月 28 日～9 月 26 日）といった要因により新規来場者が伸び悩んだものと考えます。

指標 3. 情報発信（日本語） [目標 4 に該当]

新聞・雑誌・ウェブ情報誌・テレビ・ラジオ等における掲載件数が 1 事業あたり 7 件以上。

実績：目標達成

※ 広報担当者が働きかける取材要請など、積極的な広報活動により目標を達成することができました。

指標 4 情報発信（外国語） [目標 5 に該当]

YGAM ウェブサイトにおいて事業番号 1、2、3 は英語・中国語・韓国語。事業番号 4 は英語。

実績：目標未達成

※ 新型コロナウイルス感染症により渡航自粛等も続く中、多言語発信は英語にとどまることとなりました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【計画（要望書提出時）】	【実績】
事業期間 事業1：令和3年10月23日（土）、24日（日）予定 事業2：令和3年度の内1日、日程調整中 事業3：令和3年7月24日（土） 事業4：令和3年9月11日（土）、12日（日）	事業期間 事業1：令和3年10月23日（土）、24日（日） 事業2：令和3年12月4日（土） 事業3：令和3年7月24日（土）無観客・配信 事業4：令和3年9月10日（金）、11日（土）中止

事業3は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う無観客／ストリーミング配信での実施、事業4は中止となりましたが、事業1、2においては、大きなスケジュールや公演規模の変更なく実施することができました。

事業3は、不特定多数の観客を想定する本公演の性質上、閉館後に無観客で実施するのが望ましいと判断しました。事業4は公演日が県のデルタ株感染拡大防止集中対策強化による臨時休館期間と重なり、また、公演の振替日程調整も難しかったため、公演中止と判断をせざるを得ませんでした。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【計画（要望書提出時）】	【実績】
支出予算額：22,570,000円 目標 入場者数・参加者数：690人	支出決算額：18,542,238円 実績 入場者数・参加者数：2,116人 入場者数328人＋配信視聴1,788回（令和4年2月末時点）

【計画と実績の乖離理由等】

事業費

適宜、収支の見直しを行い、事業を効率的に行いつつ、支出を抑えることができました。また、事業4の公演が新型コロナウイルス感染症拡大防止策のため中止となったことにより、機材運搬料、機材借料、会場設営費、交通費・宿泊費、当日会場整理員賃金等が発生しなかったため、支出額減少となりました。

入場者数

事業4は公演中止で観客0人となりました。事業3においては館内のパブリックスペースで事業を実施することで、多くの観衆（300人）を見込んでいましたが、無観客での公演ストリーミング配信となり、配信視聴は1,788回となりました。こうした事が人数の変化に起因しています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、コンサートや演劇公演などの多くの事業が中止・延期の判断を迫られる厳しい社会情勢の中、地域の文化拠点として、YCAMの技術・人材等の資源を投入して、市民が文化に触れる機会を最大限、提供できるよう努めました。

1. YCAMを象徴する存在

メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しているYCAMの最大の人的資源は内部に設置された研究開発チーム、YCAMインターラボです。キュレーター、エドューケーターとともに、舞台、照明、音響、映像、ハードウェア、システムエンジニア、プロダクション・マネージング、デザイナーなど、多彩なスキルを持つ常駐職員が、外部の市民、アーティスト、外部エンジニアらと、コンセプトづくりから作品制作、ワークショップ開発まで、様々な事業を主導しています。開館後18年間、蓄積された経験と知識が、令和3年度における多彩な事業展開の取り組みにおいても発揮されました。具体的には、事業1のVR技術応用や、事業2の会場中央特設舞台設営、電磁（音楽）にシンクロするようクリエーションされたレーザー光線が映し出される四方の壁へのスクリーン設置や、事業3においては新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンライン事業への変更も可能となりました。

2. 創造活動に関わる建物設備等

YCAMは建築家 磯崎新氏の設計による、展示スペース、ホワイエ、スタジオA・B・C、市立中央図書館を併設する複合文化施設です。スタジオBは小規模なライブ・コンサートやワークショップ、展示が可能なフラットなスペースで、天井に昇降式グリッドトラスが設置されているため、暗幕や照明を自由に吊ることができます。このスタジオBにおいて、事業1ではスタジオ内で公演の第一部と第二部が同時進行する中、第一部会場観客の認知することのない第二部会場設営のための暗幕を設営したり、事業2では特設中央舞台設営および四方の壁にスクリーンを設置したりという活用をしました。ホワイエは館内最大の公共スペースで、1階から2階へと続く大階段の前に広がる広大な吹き抜けで、館内におけるアクセスのしやすさや左右のガラス越しの中庭から降り注ぐ自然光が生み出す開放感が、人々を引き寄せるフリースペースです。事業3では、このホワイエから続く大階段を公演の最後をしめくくる舞台としました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

事業1

本公演はギリシャ悲劇「縛られたプロメテウス」（アイスキュロス作）を原作に、映像作家・小泉明郎が製作したVR技術を用いた体験型演劇で、山口市やその周辺地域の観客に、現代のテクノロジーと演劇表現が融合した新しい鑑賞体験を提供することができました。

アンケート集計では山口市内からの来場者が全体の36.6%、山口市周辺地域からの来場者が24.2%であり、地域の拠点施設として「山口市やその周辺地域の観客に、現代のテクノロジーと演劇表現が融合した新しい鑑賞体験を提供する」という当初の目的を達成することができました。また、アンケートで「大変良かった」および「良かった」という回答が9割を超えるとともに、自由回答欄において「鑑賞者自身の過去と未来を見るような構成が面白かったです。VRの技術を使った作品は、技術そのものに注目しがちですが、この構成によって

違った演劇作品としての体験に昇華されていました。(20代女性)」という感想が寄せられるなど、満足度の高い作品を上演できたと考えます。さらには、普段は展覧会を目的に YCAM に訪れると答えた来場者が多く (23%)、多様な観客に貴重な鑑賞機会を提供することができました。

事業2

25回目を迎えた音楽イベントシリーズ「sound tectonics」。今年度は日常的な要素を使った音作りの精神に焦点を当てたコンサートを実施しました。Sabina Ahn (韓国) は人間の汗や水分など、あらゆる生命体から発生するバイオノイズを使った演奏を行い、和田永が率いるエレクトロニコス・ファンタスティコス! (日本) はブラウン管テレビとバーコード・リーダーを使って音楽を作りました。

アンケートでは73.1%が「大変良かった」もしくは「良かった」という回答でした。また、自由回答欄において、Sabina Ahn の演奏に対して、「捉え難かった初めて触れた表現で面白かった。手がけられた作品もユニークだけど、クリエイションの発想、気づき、過程が同じくらい興味深いと思った。」(30代女性) という感想や、エレクトロニコス・ファンタスティコス! に対しては「すばらしい。山口でこういった音楽を聴く機会があるとは思わなかった。」(40代男性) という感想など、高音質の音響設備を備えた会場のみならず、演奏者の魅力を伝える工夫をこらしたステージや、電磁(音楽)に呼応したレーザー光線など、都会でも触れる機会の多くはない実験的音楽の独創的なライブステージを体験することができ、満足している様子が伺えました。

※Sabina Ahn は新型コロナウイルス感染症拡大防止策のため、韓国においての演奏とインタビューを録画したものを会場で視聴しました。

事業3

本事業は演劇集団・悪魔のしるしが発案した演劇プロジェクト「搬入プロジェクト」を YCAM 向けにアレンジし再演しました。公演会場に入る極限の大きさ／形状に設計された巨大な物体を、参加者とともに会場に搬入する過程を演劇として提示する事業です。悪魔のしるしの協力も得ながら、YCAM がこれまで培ってきた作品制作のノウハウや、ネットワークを駆使して制作された巨大物体を、YCAM に隣接する中央公園から、館内1階のホワイエへと市民の参加者と共に搬入し、特色ある実演芸術の振興、および地域住民との交流により実演芸術に対する関心を高めました。コロナ禍の中、無観客での実施となりましたが、事業の全容はストーリーミング配信しました。

新聞記事(2021年9月21日 朝日新聞23面)において「ただただ搬入 なぜか熱中」と題し、「およそ長さ8メートル、高さ2.5メートル、幅3メートル、重さ250キログラムの物体を設計し、ヘルメット姿の約30人が運んだ。」と公演当日の前衛的な事業の様子が紹介されました。

事業4

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、公演は中止となりました。しかし、公演に先立って実施した《関連事業》ワークショップ(令和3年8月21日(土) 13:00~16:00)は実施することができました。作品の演出家・劇作家であり、独特な個性を芸術表現として発表してきた岩井秀人氏を講師に招き、彼が率いる劇団ハイバイの過去作品「て」を参加者と一緒に鑑賞し、参加者からの感想を、岩井自身が引き出しながら、ときに参加者からあがった質問・疑問に、作品を作った本人が直接答えていくものとなりました。参加者ひとりひとりがそれぞれ違う視点を持っていることを知ると同時に、岩井がもつ演劇的な思考法やものの観方・視点を知ることによって、この体験が次の舞台作品への関心につながる機会となり、舞台事業全般に対する地域住民の裾野を広げることにつながりました。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

本事業を通じて事業運用能力を高めると共に、組織の持続的発展の為、下記のような取り組みを行っています。

人材面

キュレーターを始め、音響・照明等を含めた専門人材 YCAM インターラボの職員が、事業 1, 2 においてはスタジオ B、事業 3 においては大階段を含めたホワイエをその会場とした事業において、各会場の特性を把握しながら、公演の準備・制作に取り組みました。その過程において、VR 機器調整を始め、特設ステージのデザイン、レーザー光線クリエーション、四方の壁にプロジェクター映像を投影するスクリーン設置など、協議を重ねながら創作活動を進めました。また、屋外から屋内へと大階段を含めた様々なバリエーションの空間で、参加者が移動しながら巨大物体を搬入させる公演も成功させました。こうした創作活動によって獲得していく様々な技術（映像、音響、照明、舞台、プログラミング等）により、今後のさらなる事業展開に役立つ経験値を積むことができ、今後も、実演芸術における表現領域の拡大に努めていきます。

継続的な事業機能強化の取り組み

事業の「計画・実行・検証・改善」サイクルとして、前々年度からの企画提案を開始し、協議・調整を経て、事業を実施しています。事業終了後はアンケートを集計分析しその後の事業計画の参考とする他、広報チームと共に広報取組の振り返りも実施しています。

財務面

・ 山口市より指定管理者の指定（現在の期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）を受け、指定管理料の他、補助金・助成金の確保に努める共に、入場料・施設利用料等で経営を行っています。

（計上収益の推移ー平成 30 年度 779, 457, 831 円、令和元年度 682, 475, 545 円、令和 2 年度：676, 392, 824 円）

・ 友の会会員数 1, 024 名（令和 4 年 3 月末時点）。特典付入会キャンペーンのチラシによる積極的周知活動実施。

・ 事業 3 において、クラウドファンディングにより 488, 000 円を得ました。

各方面とのネットワークの形成、連携

・ 同施設内に併設の山口市立中央図書館と連携し、図書館内に「YCAM ライブラリー」の棚を設けて、YCAM 関連書籍ならびに YCAM 事業チラシ・事業関連書籍の展示をしてもらっています。これにより、図書館を利用する市民に向けて、YCAM の企画事業に対する認知度と理解を深める取り組みを行うとともに、複合施設としての相乗効果を計っています。

・ 当財団の設置者である山口市から出向職員 4 名が常勤しており、市の各部署との協力・協働体制を基盤にし、山口市教育委員会とも事業連携を行っています。